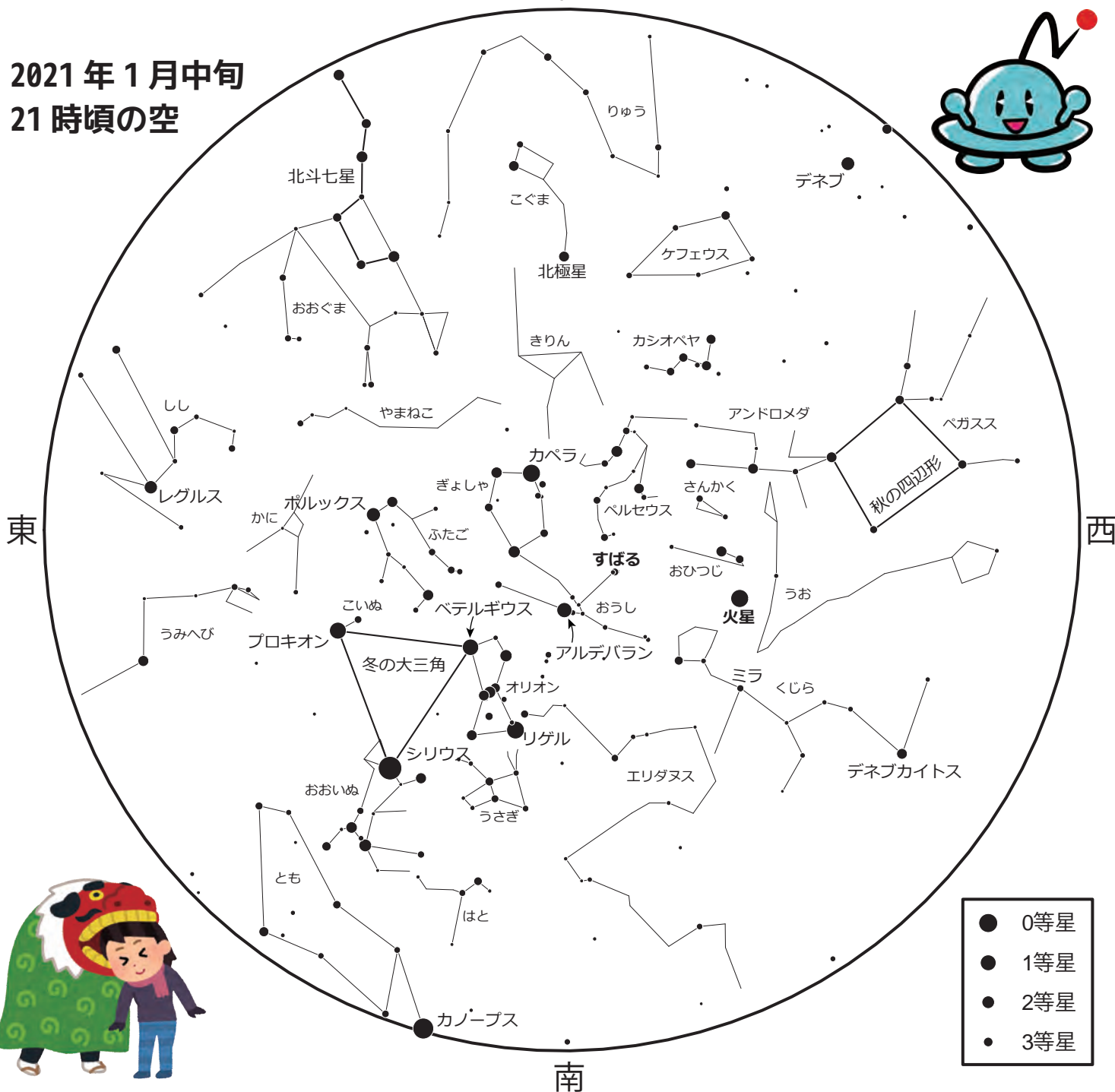




# 1月の星空案内

北

2021年1月中旬  
21時頃の空



新年をむかえるころ、頭上には冬の明るい星たち（リゲル、ベテルギウス、シリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデバラン）がよく見えています。ちなみに、1月中旬以降であれば夜10時半頃、南のごく低空で『カノープス』という星も見ることができるともかもしれません。カノープスは全天で2番目に明るい星なのですが（1番はシリウス）、南の低いところで見えるため、日本（沖縄などの低緯度をのぞく地域）では他の1等星と比べると大気の影響で暗く見え、すぐに地平線の下に沈んでしまいます。そのことから、この星を見つけることができれば、縁起が良く長寿を賜るといふ言い伝えもあります。阿南市であれば南の空の開けた海岸沿いが見やすく、筆者は見能林町内のバイパスから見たこともあります。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

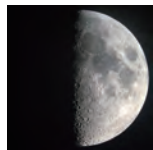
# 1月の月の満ち欠けと惑星について



下弦  
6日



新月  
13日



上弦  
21日



満月  
29日

1月の天体観望会で月が見える日時は？



1/23(土)・・・全ての回で観察可能



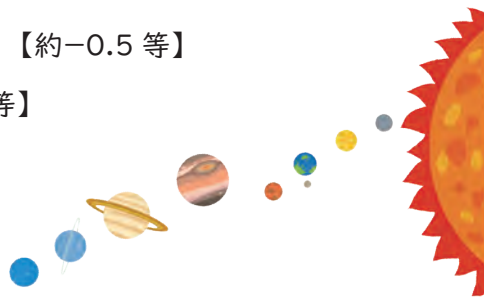
水星：1月24日の日没後、西の空ごく低空で見える（東方最大離角）。【約-0.5等】

金星：夜明け前、東の空ごく低空で見える（明けの明星）。【約-3.9等】

火星：宵の口から南の空で見える。【約0.1等】

木星&土星：太陽に近く観察は難しい。

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ24日の明るさ。



## おすすめの観察対象など

### 【星のゆりかご ～オリオン大星雲 M42～】

冬の夜空の代名詞ともいべきオリオン座には、**オリオン大星雲 (M42)** と呼ばれる天体があります (図1)。主に水素のガスからなるこの星雲は、星を作るための材料が豊富にあることから、数々の新しい星が誕生する現場としても有名です。オリオン大星雲は望遠鏡で観察すると星雲の淡い光が拡がるとともに、星雲の中心部には**トラペジウム**という4つの星が台形型に仲良く並んでいます (写真)。この星々の年齢はおよそ数十万歳と言われ、恒星の世界では生まれたての赤ちゃん星だと考えられています。この季節、毎週土曜日の天体観望会では、四国最大の天体望遠鏡でご覧頂けます。さらに今年はこの星雲をマイカメラ (一眼レフ) で撮影するイベントも行いますので、詳しくはホームページをご覧ください。



図1：オリオン大星雲やトラペジウム (撮影：K. Imamura)

### 【おかえり！はやぶさ2】

JAXAの探査機**はやぶさ2**は2020年12月6日未明に小惑星リュウグウで採取したサンプルを無事地球に届けることに成功しました。初代はやぶさのときは、探査機本体ごと地球に突入したため、機体はバラバラになってしまいました。しかしはやぶさ2は本体から放出したカプセルのみを地球に突入させたため、機体は今も元気に宇宙を航行し、新たな小惑星**1998 KY26**を目指しています (2031年到着予定)。その間、はやぶさ2は2027年と翌28年に2回地球スイングバイを行う予定なので、また地上の望遠鏡からははやぶさ2の輝きが観測できるかもしれません。

なお科学センターでは、今回のはやぶさ2の地球圏への帰還を受け、12月5日の夜から四国最大の望遠鏡で、地球に接近するはやぶさ2本体の輝き (光跡) を観測しました (図2)。事前に予測されていた位置通りに航行していることがわかり、改めて日本の技術力の高さを感ずることができました。

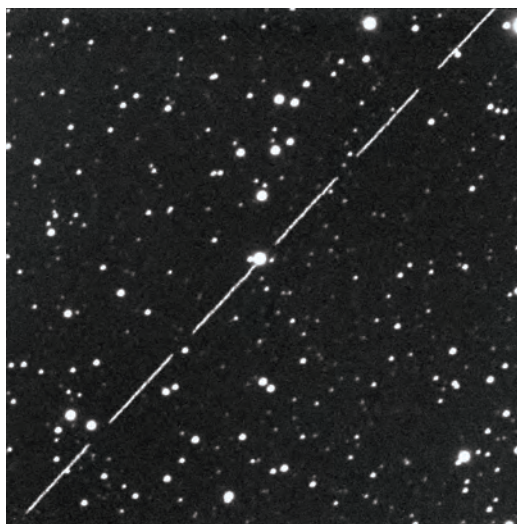


図2：はやぶさ2の光跡。撮影時は右上から左下に移動。12月6日AM00:57～00:59頃撮影 (撮影：K. Imamura)。